

# 研修トレーナーの1Patient体験記⑥

こんにちは。製薬企業向けのトレーニングを担当している、Nです。

「1Patient」を研修ツールとしてどのように有効活用するか、日々考えています。

MR活動で収集する情報は、企業にとっては財産です。すみません、釈迦に説法ですね。

でも、これまで収集した情報を系統立てて論理的に整理することは難しいです。一流の企業・一流のMRでも、これまで経験したことを感覚的に捉えて、それを必要な時に適用することが多いと思います。

かく言う私も日々努力はしていますが、MRの時も、トレーナーになってからもそういうケースが多いのが実際です。もし、経験してきたことをしっかり整理して、成果が得られた場合もそうでない場合も、その理由・背景をはっきりさせていたら、とても効率がいいですよ。失敗した場合も、『同じ轍』は踏まないでしょう、きっと。

これまでの習慣である感覚的適用から、経験の論理的適用を行ったら何が変わるでしょう。

情報収集が効率的になり、あわせてその質が良くなり、質の高い情報が企業を潤してくれるはずですよ。

こういう活動習慣をMRが継続すれば、自ずと再現性も高まり、成果も得られやすいのではないのでしょうか。大切なのは、ロジカルなものの考え方です。起こった事象に経験から即対処するのも一つですが、起こった事象の理由・背景を十分に思案してから、それを基に適切な対処することが成果をあげる可能性を高めます。

例えば、MRの提供した情報が不十分だと医師から言われたとします。この場合はこの情報を渡せばいいと、他の医師との経験から適用したパターンが自分なりにあったのに、今回はうまくいかなかった。何故だろう。

ここで「この先生だけかな、仕方がない」ではなく、「どうしてこうなったか」と個別の背景を突き詰めて思考できれば、次の一歩となりMR自身の経験が豊かになります。トレーナーとしては、ロジカルな考え方を後押ししたいですね。

質の高い情報収集を習慣づけるには、医療従事者が要望する情報の提供は必須です。情報不足のMRには先方も胸襟を開いてくれません。1patientに記載されている各項目、例えば医師の処置内容、看護記録からは各疾患に罹患された方々と関わる日常が垣間見えるはずですよ。1Patientを活用して、医療従事者が必要とする情報を洞察し、それを基に情報収集していきたいものです。

今回は1patientの記載内容からもう少し具体的に、活用方法を探りたいと考えています。

## トレーナーNの略歴

『まもなく五十路を迎える男性トレーナー。製薬企業における人材育成・研修担当として20年以上、MRの育成にかかわる。MR・マネジャーの成長が何よりの喜び。』